



はじめに

市川ジュニアBリーグ
事務局長 篠崎 義治

11月、千葉光行市川市長が『日本一』がいっぱい』という本を出版されました。その中でも書かれています。5月半ばに大阪の朝日放送から1%支援制度に関して市川ジュニアBリーグ（通称柏井リーグ）にも取材要望がありました。そして柏井リーグの活動場所である柏井少年広場にカメラマン氏も含めて3人で取材に来られました。記者氏は、少年野球リーグの規模はどのくらいですか？、何故少年野球リーグをやっているのですか？から始まり、1%支援制度に登録してどうなりましたか？の質問がありました。

当初1%支援制度への登録には反対意見もありました。私たちは少年野球リーグを開催して、子供たちが楽しんで野球が出来る環境作りを黙々とすればいい。今まで通り参加チームの会費だけでも事業は実施して来たり実施可能であるとの意見もありました。一方、市川市が全国に先駆けて作った1%支援制度と共に、私たちの実施している事業を市川市民に理解していただくことも大切なことであるという考えもありました。

最終判断は少年野球の素晴らしさを市川市民に広く伝えるためにも1%支援制度に登録することに決めました。1%支援制度に登録すれば会計報告や活動報告の義務が生じ、公のお金を処理するため我々自身が明確な計画と実績の把握をしなければいけない責任も生じます。私たちは褒められたり感謝されたりすることを期待する人間ではないのですが、柏井リーグに参加した保護者の皆様から感謝の言葉を耳にします。私たちの思いは別として、1%支援制度を通して柏井リーグも成長しつつあります。

記者氏の1%支援制度に登録してどうなりましたかの質問の答えは、グラウンド設備が整い子供たちが快適に野球が出来るようになった事、私たち自身そして保護者の皆様も含めて、少年野球関係者が社会性を感じて行動するようになったことです。

市川市長は「私はこれからのまちづくりには、地域というものの視点が何より大切であると思っています。市民自らが地域に感心を持ち、自ら地域で行動し、地域の中をよく知る人、地域に愛着を持った人たちが地域づくりに参画する、それがまさに自治の原点でもあると思います。」と言っていますが、少年野球を通して、地域で子供たちを育てる一翼を担っているという意識を持って過ごした一年間でした。最後になりますが、一年間ご指導いただいたボランティア協働推進課の皆様、スポーツ推進課の皆様に感謝の意を表します。